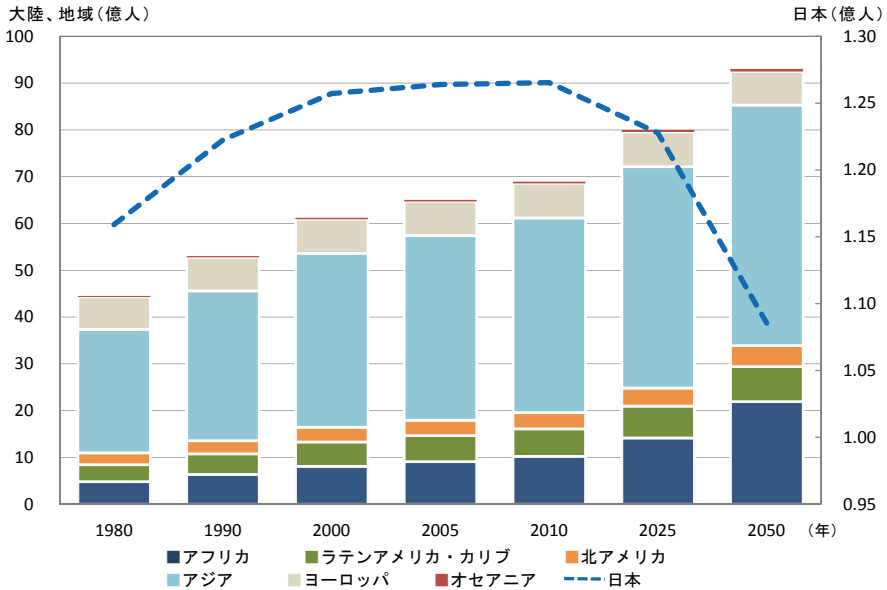


2-1 世界、大陸及び主要地域の人口（中位推計）



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第2-1表 総人口」(p.55)を参照。

20世紀初頭に約15億人であった世界人口は、1950年以降飛躍的に増加し、1974年以降増加率は低下したものの、2000年には61億人に達し、2011年後半に70億人を超えた。

国連が隔年ベースで公表する『世界人口予測』の2010年改訂版(本書の資料出所)によれば、2010年から2015年にかけては年率1.1%の人口増加が見込まれ、2050年には中位推計で約93億人に達する見通しである。予測される人口増加の大半は発展途上地域であるが、たとえ出生率が低下しても大きな人口増加が見込まれるのは、人口規模の大きいインド、ナイジェリア、アメリカ、コンゴ、タンザニア、ウガンダ——の6か国で、世界全体の人口増加の半数を占める。

現在の先進地域の人口は約12億人で、2050年には約13億人と、ほぼ同水準で推移する予測であるが、年間平均250万人規模と見込まれる途上地域から先進地域への移民規模を下回れば、さらに減少する見通しである。一方、発展途上地域の人口は、2010年時点で57億人であったものが、2050年には80億人に増加する見込みで、人口の86%が発展途上地域に属すると推測されている。